

吉林大学留学記



2018 年度 秋学期留学 (2018. 9. 3~2019. 1. 11)

2019 年度 春学期留学 (2019. 3. 8~2019. 7. 8)

巻頭言

中国学科 若杉邦子

グローバル化が進み、テクノロジーが発達し、語学教材が競うように開発・出版されている。インバウンドの増加がニュースで日々取り上げられる昨今、日本国内で外国語を話す機会は、一昔前に比べれば格段に増えた。そのためであろうか、「誰でも、留学せずとも、第二言語はマスターできる」といった声が、以前より聞こえてくるようになったのは。

その一方で、外国が「近くなった」からこそ留学し、現地の社会で人々とリアルに交流し、生きたことばや文化に触れ、それらを体験的に学修したいと考える学生数は、年々増加の一途を辿っている。日本学生支援機構が公表しているデータ*を見ると、2004年（約18,600人）から2009年（約24,000人）までは毎年、前年比平均約5%プラスの留学増加率に止まっていたものが、2010年（約28,800人）以降は同平均約14%プラスへと急激に数字を伸ばし、そのまま右肩上がりの勢いを維持して、2017年、約66,000人も留学生を国外へと送り出すに至った（同機構の公表データは2017年度分まで）。この一事を見ても、近年における留学熱の高まりがわかるというものだ。なお、「アジア・北米・欧州・大洋州・中南米・アフリカ・中東」という区分で比較してみると、目下、留学先として最も選ばれているのは中国を始めとするアジア圏であり、人数の伸びも目立って大きい。

佛敎大学文学部が開講する科目「中国語現地研修A」「中国語現地研修B」（ともに中国学科専用、以下「研修A」「研修B」と略記する）を履修する、あるいは履修した学生たちも、もちろん上記の留学人数中に含まれる。この『留学記』を作成した学生たちについて言えば、2018年9月3日から2019年1月11日までの約4カ月間、研修Aに参加した学生たちが15名、2019年3月8日から同年7月8日までの4カ月間、研修Bに参加した者たちが8名、という内訳である。彼らは中国・吉林大学の先生方による有り難いご指導・ご支援を得て“留学という大業”を成し遂げ、無事に帰国し、今秋から再び日本の紫野キャンパスで学んでいる（研修Bの参加者は研修Aにも参加済みである）。

いつも思うが、留学を終えて帰国した学生がその身にまとう雰囲気は、留学前のそれとは明らかに違っている。変化の度合に個人差はあるものの、皆に共通して言えるのは、充実した表情の中に少し大人びた様子が窺え、個々の成長が日本で待っていた教員を驚かせることだ。帰国した学生たちの多くは、少し不満げに次のようなことを口にする：「日本のキャンパスで久しぶりに受ける授業は少しつまらない」、と。もちろん、吉林大学の先生方の授業が非常に素晴らしかったがために、帰国後の、日本の教室での学びが少々物足りなく感じられるという事実はあるだろう。紫野キャンパスで日々教壇に立っている私にも、反省すべき点はおおいにある。しかし、彼らが「つまらない」と感じる理由はそれだけだろうか。おそらくそれだけではないであろう。

思うに、日本での授業に退屈するという現象は、彼らの“成長”と関係があるのではないか。異文化の中で刺激を受けつつ、自分なりに挑戦を重ねてきた学生たちは、“一回り大きくなって”帰ってきたと考えられる。語学能力面はもちろんのこと、経験面でも、意欲面でも、自信の面でも、全ての規模が大なり小なり拡張したのではあるまいか。よって「もっと学びたい」「自分ももっとできる」という期待や意欲、自信を抱いて授業に出席するため、以前であれば当たり前に感じられた日本の授業が「何か物足りない」ものを感じられ、それが上述の不満に結び付くのではないか。これは私の仮説にすぎないが、十分に考えられることであろうし、そしてこの、言わば「人間力の拡大（成長）」こそが、留学の大きな“利点”のひとつと言えるものではなからうか。

結論を言えば、語学力を伸ばすためだけに留学するのではなく、無論、トレンドのために留学するのでもない。感受性を高め、見聞を広め、意欲を伸ばし、寛容性を学び、つまりは「その人のスケールを大きくするため」に、留学制度は極めて有効である、と考える。中国学科の教員の一人として、常にこの点を意識しつつ、指導を行っていきたいと思うと同時に、語学的・人間的に大きく成長した学生たちには、将来、どのような形であれ、日本と中国、さらには日本とアジア、全世界をつなぐ、堅固な友好の架け橋になって欲しいと願う。

最後にこの場を借りて、この留学プログラムを支えて下さっている吉林大学の先生方、本学の先生方、事務局の方々に衷心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございます、と。

2019. 10. 31 記

* 独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）：「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」（2004～2017）
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_s/index.html（※2019/10/15 アクセス）

2018 中国語現地研修 A 課程表

星期	课节	授课内容
星期一	1-2	汉语阅读
	3-4	汉语听力
星期二	1-2	汉语口语
	3-4	
	5-6	HSK辅导
星期三	1-2	中国哲学
	3-4	汉语写作
	5-6	汉语实践
星期四	1-2	汉语听力
	3-4	中国文学
星期五	1-2	汉语口语
	3-4	

上课时间：1-2 8:20—9:50

3-4 10:00—11:30

5-6 13:30—15:00

2019 中国語現地研修 B 課程表

中级一 A

星期	课节	授课内容
星期一	1-2	汉语阅读
	3-4	汉语写作
星期二	1-2	汉语口语
	3-4	汉语听力
	5-6	HSK辅导
星期三	5-6	中国文化
	7-8	
星期四	1-2	汉语口语
	3-4	汉语听力
	5-6	中国文学
星期五	1-2	中国历史

汉语阅读のみ中级二

上课时间：1-2 8:20—9:50

3-4 10:00—11:30

5-6 13:30—15:00

7-8 15:10—16:40

2019 中国語現地研修 B 課程表

中级一 B

星期	课节	授课内容
星期一	1-2	汉语写作
	3-4	汉语阅读
星期二	1-2	汉语听力
	3-4	汉语口语
	5-6	HSK辅导
星期三	5-6	中国文化
	7-8	
星期四	1-2	汉语听力
	3-4	汉语口语
	5-6	中国文学
星期五	1-2	中国历史

汉语阅读のみ中级二

上课时间：1-2 8:20—9:50

3-4 10:00—11:30

5-6 13:30—15:00

7-8 15:10—16:40

2019 中国語現地研修 B 課程表

高级一 A

星期	课节	授课内容
星期一	1-2	汉语口语
	3-4	汉语阅读
星期二	5-6	HSK辅导
星期三	1-2	汉语口语
	3-4	汉语听力
	5-6	中国文化
	7-8	
星期四	5-6	中国文学
星期五	1-2	汉语听力
	3-4	汉语写作
	1-2	中国历史

上课时间：1-2 8:20—9:50

3-4 10:00—11:30

5-6 13:30—15:00

7-8 15:10—16:40

中国語現地研修 A ・ B

感想



Y.H.

「中国語現地研修A」吉林大学留学报告

从2018年9月到2019年1月我在长春的吉林大学读了四个月的书。四个月之间我碰到了很多困难，虽然遇到这些困难，但是我也学习到了中国的文化和习俗，并且学会了很多新的单词。

刚开始留学时我的汉语听力并不好，说得也不好，无法顺利聊天，这无疑是因为我的词汇量不够。我感到需要抓紧时间学习，不能白白浪费光阴。从那时起我就开始努力学习汉语。过了国庆节的时候，我终于记住了口语和听力课本的单词，并且，老师们说的话也差不多都能听懂了。我确实感觉到了自己汉语能力的进步。

我在长春也认识了很多学习日语的朋友。有一天我参加了中日交流会，并且和那时认识的朋友们一起去KTV、净月潭、在长春理工大学的图书馆互相学习。经过和她们的交流，我能够了解她们的想法，回到日本以后我也依然继续保持和朋友们通过微信聊天，我认为这是留学给我带来的好处。

到了11月份，我逐渐习惯了留学生活。11月的时候我还去了位于长春市光复北路五号的伪满皇宫博物馆。这座博物馆收藏了伪满宫廷的文物、日本近现代的文物以及东北近现代的文物。末代皇帝爱新觉罗·溥仪从1932年到1945年间曾在这里居住，它也是中国现存的三大宫廷遗址之一。在这里能够看到爱新觉罗·溥仪居住过的房子和他当时拍摄的照片、使用过的东西等。博物馆里也有日语的翻译，虽然我无法完全阅读博物馆里汉语的说明，但是能理解大致的意思。伪满皇宫博物馆给我留下了深刻的印象，成为了我宝贵的留学体验的一部分。

进入12月份，长春的天气越来越冷了，有的时候最低气温是零下20度。南湖会馆的旁边有一个非常大的公园，名叫南湖公园。有一天那所公园的湖水都结了冰，冰上还有人在走路、滑冰。在日本的时候我从未见过那样的场景，对此感到非常震惊。

通过这次在中国的留学，我遇见了很多好心人，也交了很多好朋友。和朋友一起去吃饭、聊天、出去玩、一起学习的日子是我终生难忘的时光。这次中国留学的体验，真的是我人生的幸运。

「中国語現地研修A」 吉林大学留学報告 (Y. H. さん本人による和訳)

2018年9月から2019年1月にかけての約4か月間、私は長春の吉林大学で勉学に励みました。この4か月の間に私は多くの困難に直面しましたが、そのたびに中国の文化や習慣、そしてたくさんの新しい言葉を学ぶことができました。

留学生活が始まったばかりの頃、私は中国語を聞き取ることも話すこともままならず、うまく雑談ができませんでした。それは間違いなく語彙が足りていなかったからです。私は寸暇を惜しんで学ばねばならない、時間を無駄にしてはいけないと思い、それからまじめに勉強するようになりました。国慶節を過ぎる頃には、口語とリスニングの教科書にある単語を全て覚え、先生方の話もほとんど聞き取れるようになっていました。私は、自分の中国語能力の進歩を確かに感じることができました。

長春では、日本語を学んでいるたくさんの友人と知り合うことができました。ある一日、日中交流会に参加したのですが、その時に知り合った友達と一緒にカラオケに行ったり、浄月潭という景勝地へ行ったり、長春理工大学の図書館で相互学習をしたりしました。彼女たちとの交流を通して、私は彼女らの考え方を知ることができ、日本に帰国した後もチャット上での会話が続いています。これは留学が私にもたらした良い点だと思います。

留学生活にも次第に慣れてきた11月、私は長春市光復北路五号にある満州博物館へも行きました。この博物館は満洲宮廷の文物や、日本の近現代、および中国東北地方の近現代の文物等を収蔵しています。清朝最後の皇帝である愛新覺羅溥儀が1932年から1945年までここに住んでいたため、中国に現存する三大宮廷遺跡の一つでもあります。館内では溥儀が実際に生活した部屋や、当時彼が撮影した写真、使用したものなどを見学できます。博物館には日本語のガイドもありましたので、館内の中国語の説明を全て読めるわけではありませんでしたが、ほとんど問題なく理解できました。博物館は私に強い印象を与え、貴重な経験のひとつとなりました。

12月に入ると長春はますます寒くなり、ときには最低気温がマイナス20度にもなりました。南湖会館の近くには南湖公園というとても大きな公園があります。ある日、その公園の湖の水がすべて凍ってしまいましたが、氷の上にはなんと、歩いている人や、アイススケートをしている人がいました。日本にいたときには見たことがなかったそのような光景を見て、私は非常に驚きました。

今回の中国留学を通じて、私は多くの善意の人々と出会い、たくさんの良い友人ができました。友人たちと一緒に食事をし、雑談し、遊びに行き、一緒に学んだ日々は、私にとって一生忘れられない時間です。今回、中国留学を体験できたことは、本当に私の人生における幸運でした。

J.C.

「中国語現地研修B」吉林大学留学报告

我于2019年3月8日到7月8日第二次去中国留学。现在回想起来，这次留学的时间真是转瞬即逝。

我记得3月才来的时候天气有点冷。我们的宿舍位于吉林大学友谊会馆，友谊会馆离上课的教室很近，周围还有超市和餐厅，是个很方便的地方。友谊会馆的二楼有西餐厅，我们经常去那家餐厅吃饭。在这次留学中，我自己也学会了做年糕、火锅等美食。

在中国上课时，班级可以由自己决定。我选择了比上次留学的水平高一级的班，口语、听力、阅读、写作的课和其他国家的留学生在一起上。我们班有韩国人、乌克兰人和日本人。由于上次留学时的班级中只有佛教大学的日本学生，因此感到与上次相比有很大的差异。我觉得韩国人、乌克兰人和其他日本学生的中文能力都很高，因为她们都能听懂老师讲课的内容，还能向老师提出很多问题，我觉得自己的积极性还不够。除了和其他国家的留学生一起上的课外，还有一些只有佛教大学的日本学生上的课程，这些课程包括历史、文学、文化等方面，内容非常难。虽然内容难度很大，但老师们还是认真地为我们讲解。期中考试是在5月份，期末考试是在7月初。口语考试没有笔试，只有口试。口试的内容是用老师上课学到的内容进行提问。在期中考试时我有一道问题回答不出来，但到了期末考试的时候能够全部答出来，我自己感到有明显的进步。我觉得听力考试最难，内容包括与教学内容完全不同的问题，考试形式如同HSK的形式，就好像考验自己的汉语能力一样。其他科的考试只要上课好好学习就能顺利通过。通过这些课程，我学习到了很多中国的历史和文化等，我感到在吉林大学学习到的内容很充实。

除了学习以外，在留学生活中还有很多有趣的事情。比如，吃火锅、购物、看电影等。5月27日，中国文化课程的老师带我们去参观了博物馆，博物馆里的特色店铺卖着茶具、器具、茶叶等，让人感到很有中国特色。这些店铺里的容器花样很丰富，非常漂亮。店里的人也为我们讲解了很多有关的知识，通过这些体验使我能够了解到很多中国的传统文化。

6月15日我们参加了学校的国际文化节，每个国家都有演出的节目，我们负责准备装饰。国际文化节还可以收集邮戳，我们去了很多国家的展馆盖了印章。这个文化节能够和很多国家的人进行交流，我感到非常开心。此外，也有人在舞台上表演舞蹈，气氛非常热烈，国际文化节成为了我留学生活中的美好的回忆。

6月21日，在中国首次上映了《千与千寻》的电影。因为我非常喜欢吉卜力电影，所以当我听说在中国上映《千与千寻》的电影时，就决定一定要去看。这

是我第一次进中国的电影院。电影《千与千寻》都配有中文字幕，虽然是看过好几次的作品，但因为这次是第一次在电影院看，所以真的感到很开心。很多中国人也来电影院看《千与千寻》，看来《千与千寻》这部作品在中国很受欢迎。

中国的老师们都很温柔，带我们去了很多地方，也经常请我们吃饭。在一家店里我们一起吃了北京烤鸭，我无法忘记北京烤鸭的美味，非常好吃。此外老师们也带我们去了雕刻博物馆，大家一起参观木制人型雕刻，我深深的感到中国古人的雕刻技术非常厉害。

这8个月的留学生活很充实。虽然在中国的生活中有很多困难，但是总觉得很新鲜。中国的街道和日本有很多不同的地方，也有相似的地方。中国的交通费和伙食费便宜得令人吃惊。去中国留学以前，我对中国的印象不太好，不过，通过这次留学改变了我对中国的认识和看法。我的中文能力也有很大的提高。虽然学习中文是一件很辛苦的事情，但是能够交到很多中国朋友、能使用中文和商店的叔叔、阿姨们聊天，都让我感到非常快乐。我非常珍惜这次在中国的留学经验，我希望在留学中学到的知识能够为我以后的中文学习和找工作提供帮助。

「中国語現地研修B」 吉林大学留学報告 (J. C. さん本人による和訳)

わたしは2019年3月8日から7月8日まで2回目の中国留学に行きました。今思い返すと、今回の留学はあっという間に時間が過ぎました。

中国に来たばかりの3月はまだ少し寒かったことを覚えています。私たちの寮は吉林大学の友誼会館にあります。友誼会館は授業の教室にとっても近く、周りにスーパーやレストランもあるのでとても便利な場所です。2階には西餐厅というレストランがあり、私たちはいつもそのレストランにご飯を食べに行きました。今回の留学では、私は自分でトッポギや鍋などの料理を作れるようにもなりました。

授業のクラスは自分たちで決めることができました。私は前回の留学のレベルより1つ上のクラスを選択し、口語、聞き取り、閲読、写作の授業は他の国の留学生と一緒に受けました。わたしたちのクラスには韓国人とウクライナ人、そして日本人がいました。以前の留学は、佛教大学の日本人学生だけだったので、そこが大きな違いだと感じました。韓国人やウクライナ人、他の日本人の学生たちの中国語能力はとても高いと感じました。なぜならば、授業中の先生の説明を聞き取ることができるし、さらに質問をたくさんしていたからです。わたしには積極性がまだまだ足りないと思いました。他の国の留学生と一緒に受ける授業の他に、佛教大学の学生だけの授業もいくつかありました。それらは歴史や文学、文化などを含み、内容がすごく難しかったですが、先生たちが丁寧に教えてくださいました。中間テストは5月、期末テストは7月初めにあります。口語のテストは筆記がなく、口頭テストだけでした。口頭テストでは先生が、授業で学んだ内容を用いて質問します。中間テストでは、一問、答えられない問題がありましたが、期末では全部答えることができ、自分の進歩を感じました。わたしはリスニングのテストが一番難しいと感じました。理由は、授業内容とは全く異なる問題を含み、HSKのようなテスト形式で、まるで自分の中国語能力が試されるかのようなものだったからです。他の授業のテストは、授業で習ったことをしっかり勉強してさえいればスムーズに答えられる問題でした。これらの授業を通じて、中国の歴史や文化などについてたくさん学べたので、吉林大学における学習内容はとても充実していたと感じます。

勉強以外にも留学生活では面白いことがたくさんありました。たとえば鍋を囲む、買い物をする、映画を観るなどです。5月27日は、中国文化の授業担当の先生が博物館に連れて行ってくださいました。博物館内の店には、お茶の道具や器、茶葉などが売られていて中国らしさを感じました。店内の器の柄はすごく豊富で、とても綺麗でした。お店の人も色々説明していただきましたので、そうした体験を通じて、中国の伝統文化についてたくさん知ることができてよかったです。

6月15日には、学校の国際文化祭に参加しました。国ごとにそれぞれ出し物をするというもので、私たちは飾りを準備する手伝いをしました。国際文化祭ではスタンプラリーもあり、多くの国の展示コーナーに行ってスタンプを押してもらいました。この文

化祭は多くの国の人とたくさん交流することができ、とても楽しかったです。またステージではダンスを披露する人がいて、雰囲気はとても賑やかで、国際文化祭は留学生活の良い思い出になりました。

6月21日、中国で初めて『千と千尋の神隠し』の映画が上映されました。わたしはジブリ映画が大好きなので、中国で『千と千尋の神隠し』の映画が上映されると聞き、絶対見に行こうと決めていました。中国の映画館に入ったのはそれが初めてでした。映画『千と千尋の神隠し』には、全篇に中国語字幕が付いていました。何度も見たことのある作品でしたが、映画館で見るのは初めてだったので本当に嬉しかったです。多くの中国人が映画館に見に来ていて、『千と千尋の神隠し』という作品の、中国での人気がありました。

中国の先生方は優しく、色々なところに連れて行ってくださいましたし、よく御馳走してくださいました。あるお店では皆で北京ダックを食べましたが、とても美味しく、忘れられません。また先生達は、彫刻の博物館にも連れて行ってくださいました。みんなと一緒に木製の人型の彫刻を見学したとき、中国の昔の人の彫刻技術は本当に素晴らしいと感激しました。

この8ヶ月の留学生活は充実したものでした。中国での生活には苦勞もたくさんありましたが、とても新鮮なものでした。中国の町並みには日本と違うところがたくさんありましたが、また似ているところもありました。中国の交通費や食費は遥かに安いので驚きました。留学に行く前、中国に対する私のイメージはあまり良くなかったのですが、今回の留学を通じて、中国に対する認識と見方が変わりました。私の中国語能力も大幅に向上しました。中国語を勉強するのは大変でしたが、中国人の友人がたくさんでき、中国語を用いて商店のおじさんやおばさんとお話できてとても楽しかったです。この留学経験を大切にして、留学で学んだ知識を今後の中国語の学習や就職活動に役立てていきたいと思います。

